

3-1 地域ビジネス革新プロジェクトの目的と概要

1. 地域ビジネス革新プロジェクトの目標

本プロジェクトは、秋田県を対象として農業・農村の将来像と活性化の方法を研究することを目的としている。そのための目標として、学習や研究活動とともに地域の人々との交流活動を行い、1) 農業・農村の活性化に必要な知識や手法を学ぶ、2) 農業・農村に存在する諸資源を利用したアグリビジネスの実情や農業・農村の持続的発展に向けた取り組みについて調査・分析する、3) 地域の暮らしをより豊かにするための課題発見・整理を行う。

2. 地域ビジネス革新プロジェクトの活動内容

3年次では、まず農業・農村の活性化に必要な知識や分析手法を学んだ。そして、秋田県における六次産業化や持続的農業の取り組み、地域資源を活用した取り組みについて現状と課題の分析をおこなった。以上の活動内容から導き出した今年度の卒業課題の分野は、1) 地域ブランド、2) 持続的農業、3) 地域づくり、4) 流通システムの4つとした(図)。

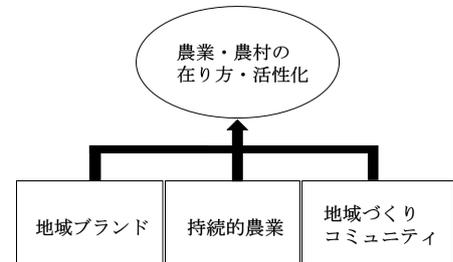


図 卒業研究課題の分野

3. プロジェクト活動における卒業研究課題の位置づけ

1) 地域ブランド

「秋田県における直接契約による加工・業務用野菜の展望について 一玉ねぎを事例に一」(小笠順義)

玉ねぎの産地化に取り組んでいる JA 大潟村及び JA 大潟村と直接契約を結んでいる加工会社 2 社を対象に、契約内容や課題などを調査し、秋田県における加工・業務用野菜の今後の展望について考察を行った。

「白神ねぎの産地化のプロセスとメガ団地の現状」(徳田陽介)

園芸振興による収益性の高い農業構造への転換が大きな課題となっている。本研究では、園芸振興が進んでいく中でのねぎ生産の産地化のプロセスとメガ団地化の取組の展開を明らかにする。

2) 持続的農業

「秋田県における野菜の有機農業の現状と課題」(高田悠太)

秋田県内で野菜の有機農業の面的普及を図っていくために、現在野菜の有機農業に取り組んでいる生産者を調査し、経営形態ごとに類型化をした。そこから経営形態ごとの現状と課題を明らかにした。

3) 地域づくり

「現代における農業テーマパークの展開可能性

—新しい農業テーマパーク(クルックフィールド)を事例として—」(加賀屋星華)

農業テーマパークが今日的な田園回帰の傾向の農業農村サイドの受け皿として有効ではないかとの認識のもと、今日登場している新しい農業テーマパークまでの変遷を概観し、その特徴と展開可能性について推論した。

「交流活動を伴う農業の成立過程と周囲との関係性について」(菅原慎)

農業における生産者と消費者の交流活動には多くのメリットが挙げられるが、交流活動を開始するまでの過程や、地域住民などとの関係性については明らかにされていない。そこで交流活動開始までの過程と周囲との関係性を明らかにし、活動開始までに必要な条件を考察する。

4) 流通システム

「秋田県内小売事業者におけるネット販売事業の特徴」(太田陽佳梨)

近年、E コマース市場規模は拡大してきているが、地方の小売事業者が行うネット販売事業の取り組みについては明らかにされていない。本研究では、ネット販売事業の運営体制とマーケティングの分析を通じて特徴を明らかにし、秋田県の特産物の販売手段として有効か考察する。